

早めの排水対策で播種時のほ場条件を良くし、出芽・苗立ちを促しましょう。  
**適正な播種時期と目標栽植本数の確保で青立ちと倒伏を防止しましょう。**

## 1 排水対策 (図1)

- 額縁排水溝を設置し、低く掘り下げた排水口につなげましょう。
- 排水不良田では、心土破碎を行うとともに、ほ場内に基幹排水溝を設置しましょう。  
 ※本暗渠が機能していない場合は、額縁排水溝とつなぎましょう。

黒根腐病は排水不良で多発します

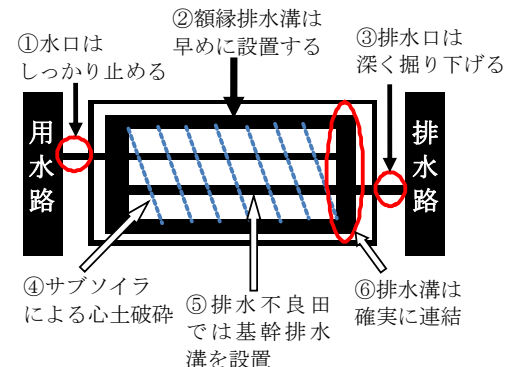


図1 排水対策の手順

## 2 土づくり

- 有機物を積極的に投入しましょう。牛ふん堆肥 2t/10a
- 石灰質資材を散布して、土壌 pH6.0~6.5 を確保しましょう。  
 シェルホス 100kg/10a または 苦土石灰 100kg/10a + \*粒状ようりん 40kg/10a  
 ※土壌中のリン酸が目標値以上の場合には施用しなくてよいです。

## 3 播種 耕起から播種の一連の作業は1日で実施

- 碎土率を高め、作土深を確保するために耕うん作業は丁寧に行いましょう。
- 青立ちの発生防止のため、播種は慌てず、5月30日頃~6月中旬に行いましょう。**  
 麦跡は刈取後、直ちに播種できるように計画しておきましょう。
- 播種時期に応じた種子量を準備し、目標栽植本数となるように**必ず事前に播種機のスプロケットなどの設定を行い、作業中も確認しましょう** (表1)。

表1 播種時期別の播種量の目安

播種時期	目標栽植本数 (本/10a)	*播種量 (kg/10a)		設定 (目皿式、B-2 の場合)		
		中粒	大粒	スプロケット		播種粒数 (粒/m)
				目皿側	車輪側	
5月末~6月上旬	16,000	5.0	6.3	10~11	13	15
6月中旬	18,000	5.6	7.2	9~10	14	17

※播種量は百粒重をえんれいのそら中粒 26.5g、大粒 34.0g、播種精度 95%、苗立率 90%として計算。

※種子が中粒か大粒か必ず確認してから機械の設定を行いましょう。

- 基肥量は青立ち発生防止のため、**基準量を遵守しましょう** (表2)。
- 播種深度は3cm**を目安としましょう。



表2 基肥量の目安

作型	施用量 (基肥 555 : kg/10a)
単作	15~20
麦跡	20~25

## 4 除草剤散布

除草剤は播種直後の土が湿っているうちに散布して、効果を高めましょう (表3)。

表3 播種直後の除草剤散布の目安

薬剤名	散布量(10a 当り)
トレファノサイド粒剤2.5	4~6kg
トレファノサイド乳剤	200~300ml (希釈水量 100ℓ)